

世相が暗くなればなるほど、命、愛、優しさが求められます。その尊さを
見つめ直そうと叫ばれます。

世の中、偽装が大流行おおはやりです。

しかし、根本的な偽装に、まだ人は気付いていません。

自分が自分だと思っている自分が偽物だとは、まだ、殆どの人が思ってい
ません。

従って、命も永遠のものだと思っていないのでしょうか。

死ねばそれで終わり、簡単に言えば、そういうことになると思います。そ
れなのに、人は、永遠の愛を求めます。

自分は永遠だと思っていないけれど、永遠に生き続けたいという願望があ
るのでしょうか。そして、愛とは永遠のものだと思いたいから、人は愛を探
し続けていくのでしょうか。

しかし、自分は永遠に生きるものだと思っていない人が、どうして、愛は
永遠だと信じられるのでしょうか。

愛は永遠のものだと思いたいだけなのでしょうか。

本当の自分を知らない人が、愛は永遠なりという言葉を出すのは、無責任
だと思いませんか。

そのような無責任な人達が、この世では、案外、悟った人、愛の人と尊敬
の眼差まなざしで見られているかもしれません。

いずれにしても、そのことを明らかにする術すべは、人間を形ととらえる小さ
な枠組みの中では、決して見つけ出すことはできません。

自分をもっと広く、もっと大きく解き放たなければ、何が真実で、本当の
愛とはいかなるものなのかは、分かるはずはないのです。

では、自分を解き放つとは、どういうことでしょうか。

あなたは、今、自分が生きている、存在していると思っ
ている自分から、自分を解き放つということを、考えてみた
ことがあるでしょうか。

「とりあえず、今を何とかしていこう。今日も一日頑張ろう。一日、一日を大切に爽やかに過ごしていこう。」

そんなふうに色々と思いつながら、確実に時間は過ぎ去っていきます。

皆さん、一日があつという間に過ぎていくことを実感していませんか。

人によっては、ある目標を設定して、それに向かって日々頑張って、それ
なりの充実感、充足感、達成感を得られているかもしれません。

しっかりと時間を過ごしていると思っておられるかもしれませんが、
そういう人達も前にもあつたように、何かふつとしたときに、妙な空虚感に

襲われることはないでしょうか。

前へ、前へ進んでいこうとしているときには感じられなくても、やがて、
達成感や充実感が通り過ぎた後、ふつと心に何か空洞、ぽっかりと空いた穴
を感じる時期がやってくると思います。

それぞれの世界で、どれだけ自分を磨き、自分に挑戦しようとも、そして、
その結果として、達成感や充実感を満喫しようとも、世間の評価を得ようとも、
それらが、自分の心の奥底にある空洞を埋めるものではないからです。

空洞は依然としてしっかりとある状態です。

形の世界の楽しみや喜びは一時的なものであるのと同じく、奮闘努力して
得た達成感や充実感もまた、心の空洞を埋めるに値するものではありません。

しかし、私達にはそれがなかなか分からないのです。

みんな、心の奥底にある空洞に気付けないまま、時間を過ごし続けている

のだと、私は思っています。

心の奥底にある空洞こそが、本当の自分を置き去りにしたことからくる人間の根源的な寂しさだと、私は感じています。

だから、どんなに栄耀^{えいよう}栄華^{えいが}の中にあっても本当の喜びや幸せには巡り会えないのです。その空洞を埋めない限り、人間は、根源的な寂しさから、解き放たれることはないからです。つまり、私達人間が、本当の喜びや幸せに巡り会うためには、心にぽっかりと空いた穴、空洞を埋めていく必要があります。そうです。その埋めていく唯一の方法は、本当の自分との出会いなんです。

しかし、本当の自分を置き去りにして、空洞をしつかりと持った私達人間は、本能的に、肉の愛を求めていきます。

肉の愛を求めても、空洞を埋めることはできないけれども、人は求めずにはいられないのです。

空洞を埋めるには、本当の自分との出会いが唯一の方法と言いましたが、本当の自分との出会いを果たすには、まず偽物の自分を解き放つ必要があります。ただ、その手段を私達人間は全く知らなかったのです。

そもそも、人間は、目に見えて耳に聞こえて、触れることのできる中で、何かを探し続けているだけです。

そして、なぜ探し続けているのか、何を探し続けているのか、それが分からないままに、それでも、それぞれに、自分を賭^とすものを探すのでしょうか。しかし、その中で、自分を賭^かける、自分の持てるものを注いでいく、そのエネルギーは、いったいどこからやってくるのだろうかと考え人は、殆ど^{ほとん}いないと思います。

実際に、何かに突き動かされていくかのように、自分が動いていく場合が往々にしてあります。